地域再生計画

１　地域再生計画の名称

野田市まち・ひと・しごと創生推進計画

２　地域再生計画の作成主体の名称

千葉県野田市

３　地域再生計画の区域

千葉県野田市の全域

４　地域再生計画の目標

本市の人口は平成 24 年の 157,363 人をピークに減少しており、住民基本台帳によると令和４年には 153,529 人となっている。国立社会保障・人口問題研究所によると、令和 27 年には総人口が 119,137 人となる見込みである。

年齢３区分別の人口動態をみると、年少人口（０～14 歳）は昭和 60 年の 32,263 人をピークに減少し、令和２年には 17,426 人となる一方、老年人口（65 歳以上）は昭和 55 年の 8,338 人から令和２年には 47,051 人と増加し、少子高齢化が今後もさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64 歳）も平成７年の 110,384 人をピークに減少傾向にあり、令和２年には 86,231 人となっている。

令和４年の自然動態をみると、出生数は昭和 53 年の 1,226 人をピークに減少し 732 人となっている。その一方で、死亡数は 1,950 人と増加し、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲1,218 人（自然減）となっている。

社会動態をみると、令和４年には転入者数は 6,225 人、転出者数は 5,075 人となっており、社会増減は 1,150 人の増であった。しかし、今後については市内の大規模な宅地開発等が落ち着くことで、今までのような社会増を維持することは難しく、早晩社会減へと転じる可能性が高いと考えている。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な

影響が懸念される。

これらの課題に対応するため、市民一人一人がまちづくりの主役となり、支え合いの心を育みながら、誰もが生涯を通じて学ぶことができ、安心して笑顔で暮らせる自然豊かなまちの実現を推進し、市民の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現を図り、自然増につなげる。また、移住を促進するとともに、安定した雇用の創出や地域を守り、活性化するまちづくり等を通じて、今後危惧される社会減に歯止めをかける。

なお、これらに取組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

・基本目標１　自然環境と調和するうるおいのある都市
・基本目標２　生き生きと健やかに暮らせる都市
・基本目標３　豊かな心と個性を育む都市
・基本目標４　安全で利便性の高い快適な都市
・基本目標５　市民がふれあい協働する都市
・基本目標６　活力とにぎわいに満ちた都市

【数値目標】

５－２の①に掲げる事業	ＫＰＩ	現状値（計画開始時点）	目標値（令和６年度）	達成に寄与する地方版総合戦略の基本目標
ア	地区指定率	43%	43%	基本目標１
	玄米黒酢農法による水稲の作付面積割合	60%	70%	基本目標１
	環境美化区域の指定数（累計）	13 か所	17 か所	基本目標１
	不法投棄ごみの処理量	97 t	80 t	基本目標１
	環境汚染・公害等の苦情及び指導件数	97 件	85 件	基本目標１

	合併処理浄化槽設置数（累計）	1,348 基	1,388 基	基本目標１
イ	認知症サポーター養成者数（累計）	17,487人	21,487人	基本目標２
	福祉施設の入所者の地域生活への移行者数（累計）	40 人	44 人	基本目標２
	福祉施設から一般就労への移行者数	36 人	39 人	基本目標２
	地域子育て支援拠点及び子ども館の利用者数	128,000 人	191,700 人	基本目標２
	保育所待機児童数（入所保留者を含む。）	０人	０人	基本目標２
	がん検診受診率	胃がん　5.1% 肺がん　11.5% 子宮がん 14.2% 乳がん　19.6% 大腸がん　14%	胃がん　10% 肺がん　20% 子宮がん　20% 乳がん　25% 大腸がん　20%	基本目標２
	乳幼児健康診査の受診率	１歳６か月児　100% ３歳児　100%	１歳６か月児　100% ３歳児　100%	基本目標２
ウ	児童生徒に対する	小学校　77%	小学校　79%	基本目標３

	調査の中で、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。」と回答した児童生徒の割合	中学校　75%	中学校　79%	
	地域の方々による学校支援ボランティア活動が活発になった学校の割合	29%	60%	基本目標３
	地域人材支援により特別授業が充実した学校の割合	100%	100%	基本目標３
	家庭教育学級の参加者数	2,943 人	3,200 人	基本目標３
	不登校率	小学校　0.9% 中学校　5.5%	小学校　0.7% 中学校　4.6%	基本目標３
	適応指導学級通級生の学校復帰率	76%	90%	基本目標３
	授業中にＩＣＴを活用して指導する能力を有する教職員の割合	100%	100%	基本目標３
	情報モラル等を指導する能力を有する教職員の割合	100%	100%	基本目標３
	公民館の利用者数	169,485 人	220,000 人	基本目標３
	人口一人当たりの図書館資料の貸出	5.8 点	6.2 点	基本目標３

	点数			
	スポーツ施設の利用者数	366,428 人	438,000 人	基本目標３
	国際交流協会が主催するイベント「国際交流フェスタ」の参加者数	230 人	400 人	基本目標３
	国際交流協会開催の日本語教室の参加者数	989 人	1,200 人	基本目標３
エ	自主防犯組織の組織率	76%	80%	基本目標４
	自主防災組織の組織率	47.1%	55%	基本目標４
	住宅用火災警報器の設置率	88.3%	92%	基本目標４
	消防団員数	551 人	720 人	基本目標４
	公園等の面積（市民一人当たりの公園等の面積）	194.01ha （12.60 ㎡／人）	194.31ha （12.68 ㎡／人）	基本目標４
	まめバス利用者数	277,441 人	290,000 人	基本目標４
	民間バス路線数	17 路線	17 路線	基本目標４
オ	自主防犯組織の組織率	76%	80%	基本目標５
	地域子育て支援拠点及び子ども館の利用者数	128,000 人	191,700 人	基本目標５
	自治会の加入率	63%	63%	基本目標５
	市ホームページ年	843,853 人	1,076,139 人	基本目標５

	間アクセス数			
	自分の人権が侵害されたと思ったことがある市民の割合	28.7%	26.0%	基本目標５
	人権尊重のためには人権に対する正しい知識を身に付けることが重要と考える市民の割合	29.6%	31.5%	基本目標５
	社会人権学習講座の参加者数	公民館　49 人 福祉会館　36 人	公民館　70 人 福祉会館 150 人	基本目標５
カ	商店会が実施するイベント、販売促進事業数	７事業	９事業	基本目標６
	認定農業者数（累計）	94 人	120 人	基本目標６
	工業関係事業所の製造品出荷額	4,935 億円	5,355 億円	基本目標６
	観光イベントの入込客数	０人	713,000 人	基本目標６
	博物館の入館者数	郷土博物館 10,863 人 鈴木貫太郎記念館　1,400 人	郷土博物館 34,500 人 鈴木貫太郎記念館　1,800 人	基本目標６
	出前講座の受講者数	848 人	850 人	基本目標６
	市ホームページ年間アクセス数	843,853 件	1,076,139 件	基本目標６

	委託事業入場者数	3,152 人	10,000 人	基本目標６
	児童生徒に対する調査の中で、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。」と回答した児童生徒の割合	小学校　77% 中学校　75%	小学校　79% 中学校　79%	基本目標６

５　地域再生を図るために行う事業

５－１　全体の概要

５－２のとおり。

５－２　第５章の特別の措置を適用して行う事業

○　まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【Ａ２００７】

①　事業の名称

野田市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア　自然環境と調和するうるおいのあるまちづくり事業

イ　生き生きと健やかに暮らせるまちづくり事業

ウ　豊かな心と個性を育むまちづくり事業

エ　安全で利便性の高い快適なまちづくり事業

オ　市民がふれあい協働するまちづくり事業

カ　活力とにぎわいに満ちたまちづくり事業

②　事業の内容

ア　自然環境と調和するうるおいのあるまちづくり事業

本市のみどり豊かな自然環境を次世代の子どもたちに継承していくために、自然環境の保全、再生、利活用に取組むとともに、農産物のブランド価値向上や農業体験等を通じた交流拠点づくりや観光資源としての活用、市民や事業者との協働による循環型社会の実現、太陽光等の再生

可能エネルギーの利活用、公害への対応や浸水対策等を実施し自然環境と調和するうるおいあるまちづくりを推進する事業

【具体的な事業】

・江川地区自然環境の保護

・環境保全型農業の推進

・ゼロカーボンシティの推進　等

イ　生き生きと健やかに暮らせるまちづくり事業

市民や各支援団体と協力、連携を図り地域で支え合う「心のバリアフリー」の意識の醸成と地域ぐるみの支援体制づくり、高齢者の生きがいづくりや障がい者等の多様なニーズを踏まえた福祉活動、施策及び社会参画、安心して楽しみながら子どもを産み育てることができる環境づくり、健康増進や医療体制の拡充、連携により済たれた場所で自分らしい生活を送ることができる環境づくり等を実施し生き生きと健やかに暮らせるまちづくりを推進する事業

【具体的な事業】

・地区社会福祉協議会活動の推進・地域福祉の推進

・子育て支援の充実

・健康教育・健康相談・機能訓練等の充実　等

ウ　豊かな心と個性を育むまちづくり事業

子どもの健やかな成長に資する環境づくり、誰もが生涯にわたって学び合うことのできる環境づくり、学習拠点の充実、郷土愛を育む学習、国際交流の機会や場の充実等を実施し豊かな心と個性を育むまちづくりを推進する事業

【具体的な事業】

・子ども未来教室の充実

・鈴木貫太郎記念館の再建

・健康スポーツ文化都市宣言及びその推進　等

エ　安全で利便性の高い快適なまちづくり事業

市、警察、地域が連携し防犯対策に取り組むまちづくり、「自助・共助・公助」の連携による防災力を向上させる取組、交通安全に配慮した

環境整備、公園や緑地等のみどりを保全及び魅力向上に取り組み豊かな都市空間の形成、東京直結鉄道の整備や東武野田線の複線化、地域のニーズを踏まえたコミュニティバスの見直し等を実施し安全で利便性の高い快適なまちづくりを推進する事業

【具体的な事業】

・交通安全指導の充実

・道路交通体系の整備

・バス路線の維持・整備　等

オ　市民がふれあい協働するまちづくり事業

市民が地域の主体となり自主的・自発的に取り組むまちづくり、地域住民や民生委員等が連携し市民を見守り支え合う地域づくり、自治会を核とした安全で安心な地域づくりの支援、情報交流・情報の共有化の推進、男女共同参画社会の実現に向けた取組等を実施し市民がふれあい協働するまちづくりを推進する事業

【具体的な事業】

・防犯体制、防犯活動の推進

・市報、ホームページ等による情報提供の充実

・男女共同参画の視点に立った意識改革の促進　等

カ　活力とにぎわいに満ちたまちづくり事業

新たな魅力を創出することによる商店街の活性化、各機関の連携を促進し企業支援や新たな事業の創出、観光資源の魅力向上、魅力ある生活環境の整備や子育て世代及び若年層の定住促進、バリアフリーの視点を踏まえた都市整備等を実施し活力とにぎわいに満ちたまちづくりを推進する事業

【具体的な事業】

・中心市街地商業等活性化関連事業

・担い手農家への支援

・観光ＰＲの推進　等

※　なお、詳細は野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

※　地域再生計画「自然及び歴史と共生するまちづくり推進プロジェクト」の５－２－（９）に掲げる事業実施期間中は、同（３）に掲げる事業を除く。

③　事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（ＫＰＩ））

４の【数値目標】に同じ。

④　寄附の金額の目安

10,000 千円（2023 年度～2024 年度累計）

⑤　事業の評価の方法（ＰＤＣＡサイクル）

毎年度７月頃に、東京理科大学や千葉銀行等で構成する野田市まち・ひと・しごと創生専門委員会議において効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本市公式ＷＥＢサイト上で公表する。

⑥　事業実施期間

地域再生計画の認定の日から令和７年３月 31 日まで

６　計画期間

地域再生計画の認定の日から令和７年３月 31 日まで